

[花き部門 令和5年度 参考となる研究成果]

事 項 名	5月出荷を目指した秋植えデルフィニウムの種子冷蔵処理による夏秋期育苗方法		
ね ら い	夏秋期の高温条件において育苗が難しいデルフィニウムについて、セルトレイ播種後の種子冷蔵処理により成苗率が向上し、これを無加温ハウスに定植することで翌年5月に採花できることを確認したので参考に供する。		
内 容	<p>1 種子冷蔵処理の方法</p> <p>(1) 288穴セルトレイに播種後、十分に灌水する。乾燥防止のためポリエチレンフィルムで包装し、これを7℃設定のプレハブ冷蔵庫内等に15日間静置する。</p> <p>(2) 出庫後は通常の育苗管理を行う。出庫後約1か月で本葉1.5枚以上となり、定植に適したサイズの苗に仕上がる。</p> <p>2 種子冷蔵処理による効果</p> <p>(1) 発芽率、成苗率がともに向上する(表1)。</p> <p>(2) 種子冷蔵処理の温度は7℃、日数は15日間が発芽の早さから適している(図1)。</p> <p>3 秋植え栽培の定植適期</p> <p>10月上旬～下旬の定植で、採花期は翌年の5月中旬～6月上旬となる。越冬株率や切り花収量の観点から、定植は10月中に済ませる(表2)。</p>		
期待される効果	高温条件下でも安定した育苗が可能となり、定植後も無加温栽培で翌年5月から出荷でき、出荷期間の拡大に寄与する。		
利用上の注意事項	<p>1 本成果は「ブルースピアー」を供試して得られた結果である。</p> <p>2 種子冷蔵処理は切り花保管用冷蔵庫内で実施した。</p>		
問合せ先 (電話番号)	農林総合研究所 花き・園芸部 (0172-52-4341)	対象地域 及び経営体	県内全域のデルフィニウム作付経営体
発表文献等	令和3～4年度 農林総合研究所試験成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】

表 1 種子冷蔵の有無が苗質に及ぼす影響

(令和3年 青森農総研)

目標定植期	種子冷蔵	播種日	種子冷蔵終了日	発芽揃日(月/日)	最終発芽率(%)	草丈(cm)	葉数(枚)	成苗率(%)
10月上旬	あり	8/18	9/2	9/3	97.9	4.8	1.8	94.4
	なし		-	9/21	76.8	-	-	0.0
10月下旬	あり	9/10	9/25	9/29	94.6	5.7	1.8	89.9
	なし		-	9/21	88.5	3.3	1.3	25.5

- (注) 1 発芽揃日は最終発芽率の9割に到達した日。  
 2 草丈・葉数・成苗率の測定日は10/5(8/18播種)、10/25(9/10播種)。  
 3 成苗率は播種粒数に対し、葉数1.5枚以上に達し、定植可能となった苗の割合。

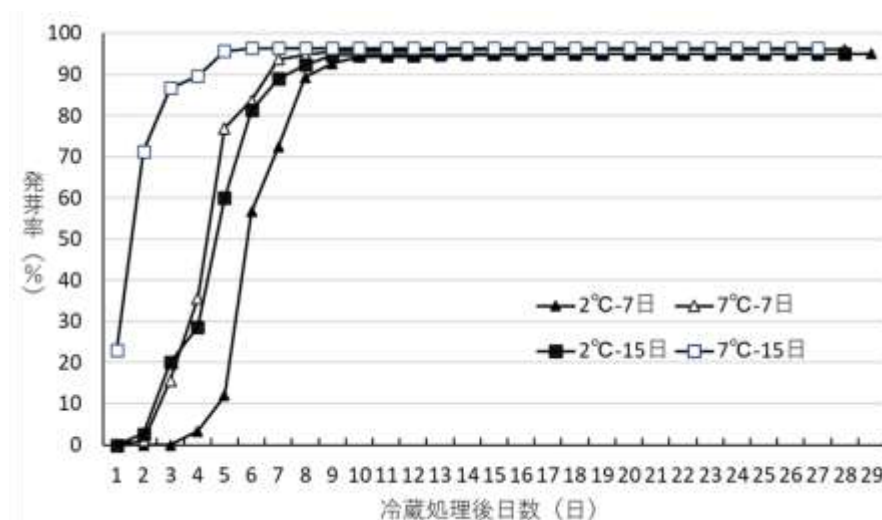


図 1 種子冷蔵処理の温度と日数が発芽率に及ぼす影響

(令和3年 青森農総研)

表 2 秋植え栽培における定植期と1番花の採花期・収量・切り花品質

(令和2～4年 青森農総研)

定植日	冷蔵処理	成苗率(%)	越冬株率(%)	採花期			単収(本/a)	粗収益(円/a)	切花長(cm)	花穂長(cm)	小花数(個)	切花重(g)
				始	盛期	終						
R3/10/5	有	94.4	83.3	R4/5/19	5/25	5/31	1,105	153,595	87.9	51.4	49.7	63.2
R2/10/8	無	42.5	83.3	R3/5/17	6/2	6/8	1,316	182,924	114.0	60.4	42.5	112.1
R3/10/25	有	94.6	96.7	R4/5/18	5/25	6/6	1,697	235,883	121.5	79.8	57.3	132.1
R2/11/13	無	91.0	73.3	R3/5/12	5/19	6/8	423	58,797	89.6	47.5	25.3	66.5
R2/12/2	無	95.0	49.2	R3/6/29	7/11	7/16	131	18,209	121.5	83.7	61.4	172.9

- (注) 1 採花始・盛期・終はそれぞれ全体の10・50・90%を採花した日。  
 2 粗収益は単収に単価139円(主要品目の技術・経営指標R4年3月版より引用)を乗じた。

耕種概要

項目	内容
1 栽植様式	各年度共通：株間15cm、条間15cm、中1条あけ4条植え(1,950株/a)
2 施肥量	R2定植：基肥、追肥なし(作付前pH6.0、EC0.9mS/cm) R3定植：基肥 N:P:K 各1.0kg/a、追肥なし(作付前pH6.1、EC0.3mS/cm)
3 温度管理	各年度共通：無加温ハウス栽培